

【静岡新聞（2021年1月8日朝刊）の経済面に

弊社のウイルス検査用ブース「富士の守り人」が掲載されました】

本製品は従来梱包に扱う強化ダンボールを使用し、新型コロナウイルス対策用製品として、医療従事者らを守るために開発されました。2021年に入り、新型コロナウイルスがさらに猛威を振るっています。

感染者数は急速に増加し、1月7日には1都3県で緊急事態宣言が発令されました。弊社製品が少しでも新型コロナウイルス収束に役立てればと思います。

また新聞掲載に先立ち、2020年12月17日に静岡新聞の取材を受けました。弊社社長の等々力より製品を開発するまでの経緯や製品機能を説明しました。実際に製品を見ていただき、強化ダンボールの強度などを実感していただきました。

ウイルス検査用ブース「富士の守り人」
大村総業(富士市)

医療機器や特殊機械の海外輸送などを担う老舗の総合物流企業が梱包（こんぱう）で扱う強化段ボールを活用して、新型コロナウイルスなどの検査で医療機関

が使用する検体採取用ブース（税込み11万円）の生産を始めた。
組み立て式で高さ約180センチ、幅約90センチ、奥行き95センチ。耐水性や強度もある強化段ボールを使うことで金属製やプラスチック製よりも軽量化を実現した。手の差し込み穴と窓部分などにプラスチックを使うが、廃棄の際には取り外しできる。環境に配慮した紙製品としてもPRする。

ドライアスルト方式用の「移動式パネル」や「卓上パネル」もラインアップ。各種要望に対応する。商品名には医療従事者を守るという意味を込めた。新型コロナウイルスの感染拡大で

海外輸送への影響が予想された2020年春から、若手が検討を始め、需要の増す間仕切りの製作を皮切りに新分野開拓を開始した。等々力けい子社長は「一次の100年を目指す企業として新たな取り組みを始める機会と捉えた。今までにない顧客との出会いで社員が成長している」と話す。避難所で使用する可搬式の組み立てベッドと間仕切り、テーブルなどの防災グッズも開発し、全国から引き合いがある。

静岡ものづくり最前線

強化段ボールで軽量化

企業情報
富士市藤原49の4。1903年創業。従業員271人。

